１２年前日記

２０００年1月２２日
（土）

山田夫妻

『１２年前日記　２０００年１月２２日（土）』

【２０００年１月２２日（土）】＊２０１２年１月２２日（日）記

朝１０時３０分、起床。起き抜けの寝ぼけ頭で、さあ、ついに今日こそ、そろそろ重い腰を上げて、仕事を再開しようと思ったので、「ああ、さては今日は休日だな」と思ったら、案の定土曜日でやんの。ま、お休みの日は勘が冴えに冴え渡るタイプだから。

あ、本日のすっごい不良行為を思いついた。もう極悪ですよ、コレは！　ヒント、人身売買や違法薬物売買や核兵器売買などでお馴染みの「売買」しちゃいます。

久方ぶりに朝からワクワクドキドキ。あ、ソッチの話つまり朝勃ちの話じゃないぞ。当然、悪さする前に、普段と違うことをすると目立つからヤサは変えない（４５０Ｂ）。

１１時、鉄は熱いうちに叩けとばかりに、俺は部屋のアチコチに散らばっている、あるモノを掻き集めて、カバンの中に突っ込んだ。なるべく人目につかないようコソコソとホテルを後にする。

前後左右を気にしながら、最寄り駅まで急ぐ。もちろん例の狂犬メス犬には気をつけているさいるさ。

滴る汗をぬぐう間もなく切符をすばやく買って、プラットホームにあがるとちょうど発車間際のスカイトレインの雄姿が。まあ、いいや、次の電車にしようという素振りを見せた後、閉まりかけた扉を無理矢理両肩でコジ開けて乗り込む。

もし尾行者がいても、これで撒けたはずだ。

少しだけホッとし、車内で左右を見回す。そう、油断は禁物。尾行者は連係プレイ好き。あらかじめ車内に仲間がいたかもしれない。

いつでも逃げ出せるようにドアのすぐ側に立ち、流れ行く景色を車窓から眺めるフリ。後ろの目でキョロキョロ。

昨日までの冴えない不良ゴッコには別れを告げて、モノホンの悪党になるときが近づく。そして目的の駅に着く。

もはや迷いは一切ない。駅からすぐのところにある、ある店の扉に手をかける。引き返すならもう今しかない。フッ、土壇場の迷いを鼻で笑って断ち切り、俺は思いっきり扉を開けた。

むせ返るような古本屋の匂いがした。

そりゃ、そうだ、ココは古本屋だからね。さてと、ついにいけないモノの売買に手を染めますか。すべて貧乏のせいだ。全部貧乏が悪い。仮に貧乏が悪くなけりゃ、誰かが悪い。少なくても俺は一個も悪くないぜ。観光ビザなのに商行為、経済活動、資本主義万歳！

カウンターにいるタイ人のネエちゃん相手に、手振り身振りで「コレを全部売りたい、なるべく高く買い取ってくれ、買い叩いたら承知しないぞ」などと告げながら、カバンから主にこの店で合計８７０Ｂの大枚はたいてせっせと買い集めた俺のコレクションを取り出す。ドーーーン！！！

大半がここ最近、この店で買ったものばかり。よもや買い取れないとは言わせねえぞ、さあ、まなじりひん剥いて、とくと見やがれ。

チラ見後、ネエちゃんが電卓を叩いて、俺に見せる。
どれどれ～、…１０５Ｂ！　チキショー、人の足元見やがって。せめて半額ならニコリと笑う用意しといてやったのに。
どうせ取材にきたのに、取材が簡単に行き詰り、さてどうすればいいかも分からず、とりあえず不良の真似事でもして現実逃避しますかと益々ドツボにハマって行くも地獄引くも地獄でニッチもサッチも行かないし、とりあえず持っていても重いから、読み終わった本でも売るかって３流自称プロ戦場特派員のサイドビジネスと見抜かれたのかしらん。
でもまあ、買い取り価格は買い集めた値段の約９分の１だが、８７０Ｂ分は十分楽しんでしゃぶりつくした。そんな食いカスが１０５Ｂになるなら余は満足じゃ。ちょっとしたマネーロンダリング気分も味わえたし。
相手の気が変わらぬうちに、１０５Ｂを引っつかんで、店を飛び出す。
タイくんだりまできて苦節３９日。ようやく金を稼げた。ちょっと黒字。どんな手段で稼ごうが、金に貴賤なし。収支決算はまだまだ大赤字だが、千里の道もまず一歩から。
さあ、ココから始まる、一流古本屋への道！
１２時、軽くなった荷と肩の荷、重くなった財布と腰を交互に確かめつつ歩を進めて、スカイトレイン（２５Ｂ）に乗り込む。
途中下車して、ランチを取りに。昼マック？　そんなクソジャンクフードなんてどこの金持ちが食うんだ、野良犬にでも食わせろ！
とホント金は怖いですねぇ～、金で気分が大きくなるし、簡単に人が変わる。古本が１０５Ｂで売れたお祝いということで、古本屋に転職しても宵越しの銭は持たねえぜの有言実行で奮発して日本食(２２６Ｂ)。
異国の地で久方ぶり、例の美人局以来だから、５日ぶりに食べる故郷の味。特に感慨なし。特に郷愁も誘われず。特に里心も刺激されない。ただただ食い足りず。
なんか詐欺に合った気分で、デザートにミスタードーナツ（４３Ｂ）。ま、日本食もミスドも全部俺の社食っすわ。社長俺、社員俺だけだけど。バンコク中が会社。つもり社内だから歩こうかと思ったが、ビンボー自称プロ戦場特派員じゃあるまいし、車内通勤電車（１０Ｂ）に乗り、最寄り駅まで。
１６時３０分、肩で風を切り、敏腕古本屋としてホテルに戻る。いっぱしの古本屋気分で昼寝を決め込む。久しぶりにいい夢が見れそうだ。
１８時３０分、悪夢から目醒めても、古本屋気分のまま。あえて夕飯は夜マック（１０７Ｂ）へ。ジャンクフードを一口一口噛み締めながら、昼間はひどいこと言ってごめんねと感謝の念をしめす。ホント、ケチャップつけ放題でケチャまみれじゃなきゃ、とても食えた代物じゃねえな、相変わらず。
グルメ評論家ゴッコにも飽き、古本屋の店番の練習気分で入口から客が入ってくるたびに、また野良犬どもが残飯漁りにきやがったって視線を投げつつ、のんびり読書。
２１時３０分、ホテルに戻る。洗濯、シャワー、読書。
１時、就寝（２０１２年の俺だけど、後２日、後２日だよ！）。

〇本日の出費、「計算するのが面倒臭いから、各々で適当にしといてよ」B。ついでに一日の流れも「いちいちうっとうしいから誰か簡単にまとめといて」ジャ〜。

『１２年前日記　２０００年１月２２日（土）』

http://p.booklog.jp/book/43041

著者 : 山田夫妻
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/yamadafusai/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/43041

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/43041

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.